

第2章 創造的で心豊かなひとづくり

施策8 生涯学習の推進

1. 生涯学習情報の提供

市民が「いつでも、どこでも、だれでも」学べる学習機会や学習情報の提供を図りながら、地区公民館等を中心に市民のニーズに適した学習活動を支援するため、各種教室・講座の開催等の推進に努めるとともに、社会教育の場を確保し、地域づくり及び地域コミュニティ再生を図るため、大川町コミュニティセンターの建設費として186,598千円を支出しました。

市民図書館では、昨今の国際化や情報化社会の中にあって、地域の情報拠点として、市民の知的ニーズに応える図書館づくりの推進に努めました。

市民図書館の利用状況としては、個人登録者数47,891人、団体登録735団体、貸出人数102,224人、貸出点数524,722点となっています。

また、資料貸出以外の図書館利用状況としては、調査相談（レファレンス）が26,736件、上映会や講演会等によるホール利用及び展示コーナー等の利用者は、27,162人となり、市民図書館が市民の生涯学習の拠点として、また、情報収集の拠りどころとしての利用が定着していることを示しています。

主な支出としては、図書館資料として、新たに本館用蔵書に9,123冊、移動図書館ぶっくん用として3,112冊及び視聴覚資料の購入を行い、この経費として21,269千円を支出しました。

また、施設の維持管理等に30,996千円、自動車図書館運転等業務委託料として3,226千円、移動図書館「ぶっくん」については、老朽化により「新ぶっくん1号」を新たに導入し、その経費として12,863千円を支出しました。

2. 社会教育の推進

豊かな地域社会を築くためには、地域の活力を培い地域を支える人材が不可欠であり、伊万里学の推進をはじめ、地域リーダー育成など人材教育のための各種事業を推進するとともに地域活動の中核的役割を担う社会教育関係団体等の育成に努めました。

地域婦人連絡協議会、市子ども会連合会等の社会教育関係団体に対する補助金として417千円支出しました。

また、急激な社会変化に対応し、豊かで充実した人生を送るための様々な社会的課題の学習機会として、学校を卒業した知的障害者の社会的自立等を目指したあおぞら青年学級などを開催しました。

伊万里の歴史・文化・風土・人物・産業などに学び、それらを素材にして考え、まちづくりにつながる学習と実践活動を伊万里学の基本理念として、新しい文化が息づく伊万里市づくりに取り組んでおり、この活動をさらに普及拡大するため、新しい発想を加えながら様々な事業の展開に積極的に取り組んでおり、市内の13公民館と生涯学習センターで、地域の特性を生かし「伊万里塾」を開設し、その経費として700千円支出しました。

一方、人的諸条件の整備として、社会教育関係職員の資質の向上を図るため、社会教育研究大会等の開催とともに、研修会・研究大会へ積極的に参加し指導体制の確立に努めました。

市民図書館ではブックスタート事業を実施し、21年度は延べ12回実施して547人の参加があり、配付用の絵本の経費等として327千円を支出しました。

3. 家庭教育の推進

少子化や核家族化等の社会変化に伴い、家族関係の希薄化が危惧される状況の中で、子育てに不安を抱える親が増えていると言われてしています。

その要因として、地域的なつながりの希薄化等による家庭教育力の低下が指摘されており、社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっています。

このため、「訪問型家庭教育支援チーム」を設置し、子育てや家庭教育に不安や悩みのある方に対して、学校・保育園・家庭等を訪問して、きめ細やかな家庭教育支援を行う「訪問型家庭教育相談体制充実事業」に取り組み、1,047千円を支出しました。

一方で、読書習慣を身につけ、言語力を高めるためには、子どもの時から本に親しむことが大切だといわれています。そこで市民図書館では、平成17年度に策定した「伊万里市子どもの読書活動推進計画」が期限となることから、第二次計画の策定を行うとともに、文部科学省の「子ども読書の街づくり推進事業」の委託を受け、子ども読書についての講演会を開催しました。

また、親と子が読書を通して心を通い合わせ、親子・家族の絆を深めることを目的とする、「家読（うちどく）」を市内12地区で取り組みました。さらに10月には全国で「家読」に取り組む3市町の首長により「第1回家読サミットIN伊万里」を開催するなど、これらの家読推進事業として、3,898千円を支出しました。

施策9 青少年の健全育成の推進

1. 健全育成活動の推進

青少年育成のための、市民運動の展開については、青少年育成市民会議に614千円を支出し、少年の国内研修事業「第23回伊万里サマーキャンプ」や「第25回野性への挑戦」などの自然体験学習のほか、親子のふれあいを深める場として「LOVE伊万里21世紀のつどい」を開催し、子供たちの自主性や協調性を培う一方、青少年団体の組織強化・活動支援に努めました。

さらに、青少年の非行防止とともに健全育成運動を推進するため、市民総ぐるみの運動として地域環境点検活動を実施しました。

また、放課後子どもプランの一環として、子どもたちに安全安心な居場所を設け、地域住民と勉強やスポーツ、文化活動などの交流活動を推進するため、8公民館（伊万里・大坪・立花・大川内・牧島・黒川・二里・山代）で「放課後子ども教室」を実施しました。

2. 非行防止活動の推進

多様化する青少年問題への対応と青少年施策の調査審議を行うために、青少年問題協議会を開催しました。

一方、青少年の問題行動への迅速な対応のため「青少年対策ネットワーク会議」のさらなる連携強化を図り、定期巡回パトロールを実施するとともに、青少年や家庭からの悩み相談に適切に対処できるための青少年相談室の充実に努めました。

施策10 学校教育の推進

これからの社会を生きる子どもたちは、知識を身につけるだけでなく、自分で考え、自分で表現する力を身につけ、思いやりの心や倫理観・正義感に満ちた、豊かな人間性を育てていくことが大切であり、学校では自然体験や社会体験、問題解決的な学習を重視し、積極的に授業に取り入れていくことが求められています。

こうした新しい時代の要請に応える学校教育を確立するため、知・徳・体の総合力としての「生きる力」の育成を基軸にして、確かな学力と豊かな心、たくましい身体を持ち、創造的で個性豊かな児童生徒の育成を目指し、教育環境の整備充実等の諸施策を積極的に推進しました。

1. 幼稚園教育の充実

幼児期は、人間形成の基礎を培う重要な時期であり、少子化の時代を迎え、幼児の教育や子育て支援の充実を図るうえで幼稚園の役割はますます大きなものになってきています。

こういったことから、集団生活や自然体験等を取り入れるなど、幼児が身近な人たちとのかかわりを深め、愛情や信頼感を育むための教育を進めるとともに、開園時間終了後や長期休業中の預かり保育事業を実施して、入園児の共稼ぎ世帯の保護者の子育て支援に努めるなど管理運営費として43,888千円を支出しました。

また、私立幼稚園に通園する満3歳児から5歳児を対象に、就学前教育の機会均等と保護者の負担軽減を図るため、幼稚園就園奨励費補助金15,974千円を支出したほか、学校法人伊万里幼稚園と伊万里カトリック幼稚園に対し、運営費補助210千円を支出するなど、幼稚園費全体で60,786千円を支出し、幼児教育の充実振興に努めました。

2. 教育内容の充実

(1) 学力向上対策推進事業

児童生徒の個性と能力に応じた自己実現を図るため、また、基礎基本の徹底を図り、確かな学力の定着を図るために、学力向上対策委託料として1,400千円を支出しました。

(2) C A I 研究事業

情報化に対応する教育を推進するために、各小中学校のコンピュータ教育担当によるC A I 研究委員会を組織し、指導方法や利用方法等に関する研修を重ねており、その活動充実のための委託料として135千円を支出しました。

(3) 特色ある学校創造事業

学校が児童生徒や地域の実情に応じた特色ある学校づくりを推進するため、特色ある学校創造事業を委託し、2,500千円を支出しました。

(4) きらきら伊万里っ子育成事業

やさしい心を育むとともに、歌声あふれる心豊かなまちづくりを図るために、「伊万里市童謡歌集」を作成するなど、きらきら伊万里っ子育成事業を推進するための費用として500千円を支出しました。

(5) 小中学校パソコン管理事業

情報化社会に対応していくためには情報教育が必要であり、また、校務処理においてもパソコンが必要であるため、小中学校においてパソコン等の整備を行っていますが、平成21年度は、国庫補助事業を活用し、教育用パソコン及び校務用パソコン等を整備する費用として、57,540千円を支出しました。

(6) 外国青年招致事業

外国語指導助手（A L T）は、小中学生の英語に対する関心を高め、国際感覚を身につけることにも大きな成果をあげていますが、平成21年度は3名の指導助手が英語の学力向上と国際理解の指導にあたり、その経費として8,829千円を支出しました。

(7) 学校施設・設備の整備

学校施設の整備は、児童生徒の個性と能力を伸ばす人材育成の重要な場であるとの観点にたち、総合計画に基づき、国見中学校校舎改築工事等を行いました。

また、小学校1校の老朽化したプールろ過機の改修等を行いました。

小・中学校の耐震化を図るため、小学校5校において教室棟の耐震診断を行いました。

営繕工事については、児童生徒の安全の確保と良好な学習環境を維持するため、緊急性・安全性を優先的に考慮しながら、その整備に努めました。

また、国庫補助金を活用して市内小中学校の太陽光発電設備設置と校内LAN整備に努めました。

・学校施設整備状況

(単位：千円)

事業名	学校名	事業費	事業内容
学校建設	国見中学校	497,240	校舎改築工事等
プール整備	東山代小学校	4,358	山代西小学校プール改修工事
営繕工事	小学校	108,655	校舎等営繕工事、太陽光発電設備設置5校、校内LAN整備5校
	中学校	53,652	校舎等営繕工事、太陽光発電設備設置3校、校内LAN整備3校
耐震化事業	小学校	7,455	小学校5校教室棟耐震診断

3. 適切な教育指導の推進

(1) 学校適応指導教室事業

不登校児童生徒の問題は、教育上重要な課題となっています。このような状況に対応するため、本市においては、平成7年度から適応指導教室「せいら」を開設し、平成19年度からは市内全域の児童生徒への対応を充実させるために1教室増設し、不登校児童生徒への支援を行っており、その運営経費として3,660千円を支出しました。

(2) 学校評議員事業

学校運営に保護者や地域住民の意向を取り入れ、必要に応じて助言及び支援を学校運営に生かし、保護者や地域住民に信頼される学校づくりを目指すために学校評議員制度を設けており、その評議員への報酬として432千円を支出しました。

(3) スクールアドバイザー事業

不登校児童生徒が増加していることなどから、教育現場における児童生徒への精神的なケアは非常に重要なものとなっており、平成11年度から児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識、経験を有する専門のアドバイザーを配置しています。

こういった学校におけるカウンセリング機能の充実を図るための費用として、2,970千円を支出しました。

(4) 教育研究事業

各教科等において研究を深め、教職員の資質の向上を図るための研修会の実施、また、児童生徒の学習成果の発表会を行うため、教育研究事業委託料として400千円を支出しました。

(5) 就学指導委員会事業

児童生徒の能力や個性を最大限に伸ばすためには、適切な就学指導が重要であるため、専門家によ

る調査、判定を行う就学指導事業委託料として95千円を支出しました。

(6) 特別支援児童生徒サポート事業

障害のある児童生徒が安心して充実した学校生活を送るため、児童生徒の介助、支援等を行う職員を配置し、その臨時雇賃金として、9,458千円を支出しました。

4. 健康教育と安全教育の充実

(1) 小中学校保健管理事業

児童生徒の健全な成長を促すこと、教職員の健康保持を図ることは重要であるため、学校医等に対する報酬、健康診断を行う費用として、また、万一の児童生徒のけが等に備える共済掛金等として、24,863千円支出しました。

(2) 学校給食

学校給食は、学校教育の一環として位置付けられており、給食を通じて望ましい食習慣の形成や児童・生徒の健康の保持増進、好ましい人間関係を育むものです。

このため、「米飯週5日制」を取り入れ、地元食材を積極的に採用した栄養バランスのとれた給食の提供や食事マナーの指導に努めるとともに、衛生管理の徹底を図りながら、安全で魅力ある学校給食の推進に努めました。

学校給食センターPFI事業で維持管理及び施設整備等に要する経費として161,721千円を支出しました。

また、学校給食センターの管理運営等に要する経費として51,827千円を支出しました。

施策11 スポーツの振興

高齢社会の進展や生活の利便化など社会環境が大きく変化するなか、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが身近にスポーツに親しめる環境づくりが求められており、「スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくり」を推進するために、スポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と競技力の向上に努めました。

1. 生涯スポーツの振興

市民が気軽にスポーツを楽しみ、交流する機会を創出するため、体育指導委員等を中心としたカラーリング、インディアカ等の各町ニュースポーツ教室や各種大会の開催、町民スポーツ行事の活動支援等を行いました。特に、市制55周年記念事業として開催した市民体育祭は、市内各町から約1,800名の参加があり、生涯スポーツの振興に大きく寄与しました。これらに要する経費として4,778千円を支出しました。

また、市民が気軽に参加できる健康づくりの場とともに、本市の魅力を発信するため「歩きたくなる街 伊万里ウオーク2009」を開催し、それに要する経費として500千円を支出しました。

さらに、市民がスポーツに親しめる環境づくりとして、国見台体育施設など既存社会体育施設の適切な維持管理、各町地域運動広場の整備支援のほか、地域活性化臨時交付金やスポーツ振興くじ助成金を活用し、国見台体育館のフロア改修等を行うとともに、伊万里湾大橋球技場夜間照明施設の設置及び駐車場の舗装等を行いました。これらに要する経費として90,814千円を支出しました。

2. 競技スポーツの振興

競技力の向上を図るため、市体育協会や各競技種目団体等と連携し、中学生野球大会、高校野球大会、市内一周駅伝競走大会等を開催したほか、全日本実年ソフトボール大会や全国スポーツ少年団ホッケー交流大会等、全国・九州レベルの大会に出場した競技スポーツの団体等に対し支援を行うなど、これらに要する経費として4,156千円を支出しました。

また、第91回全国高等学校野球選手権大会に伊万里農林高等学校が初出場し、市民一丸となって応援するとともに、大会参加支援に要する経費として5,000千円を支出しました。

さらに、市民にスポーツを通して夢や感動を与えるとともに、競技力の向上に繋げるため、日本プロ野球名球会及びOBクラブ24名を招き、「ドリーム・ベースボールin伊万里」を開催し、市内の児童・生徒が直接指導を受ける場、あるいは見るスポーツの場を提供するなど、これらに要する経費として1,000千円を支出しました。

施策12 人権教育と啓発の推進

同和对策事業特別措置法が昭和44年に制定されて以来、これまで40年間にわたり施策を講じてきましたが、地区住民の実態としては臨時雇用等の不安定就労が多く、生活基盤は脆弱な状況です。また、県内では近年においても差別発言等が発生するなど、依然として偏見による差別観念が存在しています。

そのため、人権意識の高揚を目的として、平成19年3月に策定した「伊万里市人権教育・啓発に関する基本方針」に基づいて、関係機関等と協力し、講座やイベントの開催及び市民の参加促進、指導者の育成などに取り組みました。

1. 同和問題の解決促進

同和問題の早期解決を目的に、隣保館と同和教育集会所を拠点として生活や就職、健康に関する相談や周辺地域との交流活動を行いました。

隣保館の主な交流活動としては、大川町夏休みワイワイキャンプや大川・松浦小学校6年生交流事業を実施し、キャンプに104人、交流事業に38人の子どもたちや関係者が参加しました。

また、同和教育集会所の主な交流活動としては粘土教室や料理教室を開催しました。

さらに、部落差別解消を目的として、地区住民が自主的・自発的意思に基づく運動を展開し、研修会等を企画し参加するなど行政の補完的役割を果たす活動に対する補助金として8,910千円を支出しました。

2. 社会における人権教育の推進

伊万里市人権・同和教育推進協議会と連携し、様々な人権問題の解決を目的にあらゆる機会をとらえながら、市民に対する人権教育を推進いたしました。

特に地域社会が一体となった人権・同和教育を推進するため、人権・同和教育地域推進員等を対象とした指導者育成講座を実施するとともに、市民と直接意見交換を行う「地区巡回講座」をはじめ婦人会、PTA、老人会等の各種団体に対する研修を行いました。

さらに、伊万里・西松浦地区公正採用選考人権啓発推進連絡協議会と連携を図り、企業、事業所に対して職場内研修を実施しました。

主催した主な啓発事業としては、8月の佐賀県同和問題啓発強調月間に市民センターで「同和問題講演会」を開催し、461人の市民が参加しました。人権週間には「ハートフルフォーラム in 敬徳高校2009」を開催し、高校生を中心として640人の市民が参加しました。子どもを対象とした事業としては「人権の花運動」を伊万里小学校で実施しました。これらに関する経費として1,247千円を支出しました。

3. 学校における人権教育の推進

(1) 人権・同和教育研究事業

子どもの人権感覚を育むためには教職員の資質の向上は重要であることから、専門的に人権・同和研究を行う委託料として243千円を支出しました。

施策13 文化活動の推進

1. 文化活動の推進

個性豊かで薫り高い地域文化の創造は、これからの人づくりや地域活性化の有効な方法です。

そこで、伊万里が持つ個性豊かな文化が市民のくらしのなかに根つき活かされ、さらに魅力ある地域文化を築く糧となるよう市民活動の拡大に努めてきました。特に、「伊万里を学び、伊万里を語り、伊万里を創る」郷土学としての「伊万里学」を伊万里文化創造の理念に据え、市民主役の文化活動の展開に努めるとともに、地域に根ざした芸術文化や生活文化の振興に努めました。

自らが学び習得したものを人前に発表する機会を提供することは、市民の学習意欲や文化意識の高揚を図るうえで極めて重要であることから、「伊万里学」の普及活動の一つとして親しまれている「市民音楽祭」を12月に開催し、練習をとおしての世代間交流やステージから流れる美しい調べに、歌う人と聴衆が一体となり、心豊かな機会とすることができました。また、恒例の第30回伊万里市美術展を開催し、レベルの高い作品が数多く出品され、優れた作品の発表・鑑賞の機会として好評を得ました。

さらに、市民自らの活動の成果の発表の場である「伊万里市文化祭」等を支援しながら文化活動の活性化を図るため、文化団体等の育成補助を行い、これらに要する費用462千円を支出しました。

黒澤明記念館の建設については、平成11年3月に黒澤明文化振興財団が設立され、平成12年度から本格的に記念館建設計画が動き出したわけですが、平成15年度には計画の見直しもなされ、市としては、それ以降、計画の進捗状況の確認や目に見える形での計画の実現などを財団に対し、強く働きかけてきました。

しかしながら、近年の厳しい経済情勢の影響もあり、なかなか計画の実現には至らず、平成22年1月末には、新聞などにより、財団の寄附金管理問題が報道されたことから、翌2月に、黒澤理事長に説明の要請を行い、市議会全員協議会において、新聞報道などに関する現状報告を受けました。

その後、3月23日に、市議会全員協議会において、市の方針説明を行い、議会の了承を得たうえで、市と市民にとって不利益にならないことを第一に考え、市としての一定の判断をいたしました。

このような中、平成21年度では、財団との協議を行うとともに、企業情報調査を行うなど、これらに要した経費として150千円を支出しました。

古陶磁美術館として世界的にも評価が高い「財団法人戸栗美術館」（東京都渋谷区）が大川内山において計画されている新美術館建設については、平成18年7月に買収を完了された計画地が、地質調査等の結果、地すべりの危険性があることが判明し、予定されていた建設計画に遅れが生じていることから、打開策について美術館と協議を行い、その経費として221千円を支出しました。

2. 国際交流の推進

地方の国際化が進むなか、市民が他の国の文化を理解し、国際感覚を身につけるよう、外国語教室の開催や交流事業などの活動を展開している伊万里市国際交流協会を支援するため、90千円を支出しました。

また、本市の国際交流は、伊万里湾を活用した国際交易基地を目指すなかで、特に本市と至近距離にあり、港という共通性を持つ、中国大連市との交流事業を推進しています。

大連市国際人材交流協会より平成20年10月から1年間14人目となる公務研修生を受入れており、平成21年度はその費用として公務研修生受入事業に930千円を支出しました。

さらに、外国人の受け入れ態勢を強化するための国際交流専門員1人を配置し、その費用として、2,159千円を支出しました。

施策14 文化財の保護と活用

地域の自然や風土の中で生まれ、継承されてきた有形、無形、民俗、記念物などの文化遺産は、市民の生活に誇りと潤いをもたらす源泉であり、これからの新たな地域創造の有効な素材となるものであり、地域文化向上の基礎となるものです。

1. 文化財の保護

埋蔵文化財は地域の歴史や文化の成り立ちを正しく理解する上で欠くことのできない国民共有の貴重な歴史的財産であります。このため開発事業との調整を図り埋蔵文化財の保護を円滑に進めるために、公共事業や民間開発の194件の開発申請等について調整を行い、12件の確認調査を実施しました。これらに要した経費として国等の補助事業を活用して1,001千円を支出しました。

埋蔵文化財の保護と開発の調整を図るため、20年度から井手口川ダム工事に伴う筒江窯跡の発掘調査を行っておりますが、21年度には、近世の階段状登窯跡1基と物原部分の調査を実施しました。

今回の調査によって江戸時代前期の窯跡の形態や製品の時代変化などを明らかにするための貴重な資料を得ることが出来ました。これらに要した経費として3,077千円を支出しました。

伊万里市内には約80ヶ所の窯跡が所在していますが、いくつかの窯跡は何度も盗掘被害を受けています。この貴重な文化財を保護するため窯跡保存対策業務として、警告看板の製作と設置、盗掘跡の埋め戻しなどを実施し、これらに要した経費として30千円を支出しました。

カブトガニ保護活動の理解者を拡充し、今後の保護活動を充実させるため、21年度は、牧島のカブトガニとホテルを育てる会が建設し、運営する「伊万里湾カブトガニの館」の建設費と運営費を補助しました。伊万里湾カブトガニの館は7月25日に開館し、平成21年度中に3,985名の入館者がありました。これらに要した経費として7,014千円を支出しました。

2. 文化財の活用

歴史民俗資料館では、博物館・美術館づくりをすすめる会との協働開催事業として「第10回市民所蔵品展」を、10月11日から25日間開催しました。今回は「油絵」をテーマとして市民に募集し、山口猛彦、岡吉枝、多久島徳造、古川華南など、貴重な作品12点の出品がありました。期間中に240名の入館者があり、市民の歴史や文化などふるさとに対する関心を高める事業として効果がありました。

また、緊急雇用創出基金事業を活用して、伊万里市郷土研究会と協働して、民俗資料を中心に、

所蔵する資料2,712点の整理と台帳作成を行いました。21年度の入館者総数は1,080名で、資料館管理運営に要する経費として2,861千円を支出しました。

陶器商家資料館では、市重要文化財 旧犬塚家住宅として、建物の公開と併せて「古伊万里」などの古陶磁器や、商家に関する文書や調度品などの展示を行い、21年度の入館者は3,840名を数えました。陶器商家資料館の管理運営に要する経費として1,278千円を支出しました。

伊万里・鍋島ギャラリーでは、世界に誇る鍋島の美に接し、その美しさを堪能してもらうとともに、郷土の歴史、文化に対する理解を深めるため、館所蔵の優品を紹介する第16回常設企画展として平成20年12月5日から6月21日までは「風流のうつわ 鍋島展」を開催し、引き続き、第17回常設企画展として7月5日から10月4日まで、「鍋島優品展 これが鍋島 これぞ鍋島」を開催し、さらに10月17日以降「初期鍋島展 鍋島のはじまり」を開催しました。

これらの期間中に、本市所蔵の鍋島・古伊万里、延べ116件176点および陶片39点を展示公開し、21年度は2,059人の入館者がありました。伊万里・鍋島ギャラリーの管理運営に要する経費として3,050千円を支出しました。

また、大川内山の秋の窯元市に協賛して伝統産業会館においても、本市が所蔵する古陶磁器を広く一般に展示公開し、伊万里の歴史的・文化的特徴の理解を深めるものとして成果がありました。

博物館基本計画研究事業では、19～20年度に博物館・美術館の基本構想を策定し、21年度は次の段階である基本計画の情報収集として先進地視察を行いました。活動面の視察として市民による資料収集・調査研究・展示発表などを実践している「太宰府市文化ふれあい館」と、建設に係る視察として低コストのリファイン建築である「八女市多世代交流館」の2箇所を前基本構想策定委員や市民団体の代表者の方々に視察していただき、今後の整備計画の内容に反映させるための貴重な意見を得ることができました。これらに要した経費として53千円を支出しました。